

令和7(2025)年度 自己評価・施設関係者評価報告書

北見福祉会は、夕陽ヶ丘認定こども園・光西認定こども園・みなみ認定こども園の教育・保育目標や計画等をはじめとする運営について、自己点検と評価、公開保育の実施、施設関係者評価委員会での評価を行った後、「令和7年度自己評価・施設関係者評価報告書」を作成しました。

今後は、自己評価に基づく改善に努めるとともに、各評価委員から頂きました貴重なご意見をさらなる教育・保育に生かしていけるよう職員一丸となって努力してまいります。

関係者の皆様には、今後ともご支援とご指導を賜りますようお願い致します。なお、本書は本会ホームページに公表予定です。



令和8(2026)年6月1日

社会福祉法人北見福祉会理事長	大 江	學
夕陽ヶ丘認定こども園園長	杉 浦	潤
光西認定こども園園長	佐 藤	亮
みなみ認定こども園園長	徳 増	秀 隆

1. 自己評価・施設関係者評価の目的について

- 自己評価は、各こども園が自らの教育・保育活動やその他園運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について評価することにより、こども園として組織的・継続的な改善を図ることを目的に毎年、3月に全職員により実施しています。
- 施設関係者評価は、各こども園が実施した自己評価をもとに、毎年4～5月頃に関係者による評価委員会を開催し、その結果をホームページ等にて公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、保護や地域住民等から理解と参画を得て、こども園・家庭・地域の連携協力によるこども園運営を進めることを目的としています。

2. 北見福祉会の基本理念について

- 児童憲章に則り、心身の発達を助長し、望ましい人間関係の育成を目指します。
- 子どもの人権や主体性を尊重し、乳幼児の最善の利益が守られるよう、こども園と保護者や地域の方々との強い連携のもとに児童福祉の増進を図ります。
- 社会福祉法人としてあるべき姿を追求し、地域に必要とされる法人を目指します。

3. 北見福祉会の中期事業計画について(関係分抜粋)

(1) 法人運営の安定化において

法人機能の充実と法人運営の安定化において、役員等の健康管理にも努めつつ、定例役員会議、理事会、評議員会、その他の法人活動等の役割が確実に果たせるよう体制強化に努めます。

(2) 財政基盤の長期確立において

社会福祉法人としての財政基盤の充実・強化を図るため、適正な資金運用に努めると共に、安定した入園児童の確保と施設型給付費等による収入確保に努めます。

また、各種積立金(人件費、修繕等、備品等購入、施設整備等)については、「積立金5ヶ年計画」に基づき長期的な財政基盤の安定化を図ります。

(3) 地域貢献活動について

各こども園が地域福祉に資するよう、地域の諸活動や交流事業に積極的に取り組み、地域の方々から信頼される北見福祉会及び各こども園を目指します。

4. 評価項目と着眼点について

評価項目（評価の着眼点）	
①理念等	社会福祉法人としての「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。
②経営状況	法人の経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。
③指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。 ○毎月、各担任を中心に「月ごとの指導計画」を作成しているか。 ○年度末に、各担任を中心に反省・検討を行い、次年度の「全体指導計画」作成に活かしているか。 ○それらの指導計画をその後の教育・保育に活かしているか。 ※「全体指導計画」とは、1年間を通してのこども園の運営をまとめた計画書である。 ※「月ごとの指導計画」とは、園児の発達状況を考慮し、月ごとに各担任が中心となり作成する教育・保育の計画書である。
④人権尊重	子ども一人ひとりに寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。 ○子ども一人ひとりの発達段階によるが、上手に自分の気持ちを言葉や表現で伝えたりすることができない場合も多々ある。その際に、その気持ちを汲み取って理解したり、仲立ちになってあげたりする配慮ができていますか。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。 ○子どもへの体罰や虐待、乱暴な言葉遣いが無いように気を付けているか。 ○子どもの気持ちをしっかり聞き入れて対応しているか。
⑤園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。 ○全体指導計画にある“各行事のねらい”（入園式・運動会・発表会・卒園式など）をその都度確認しながら、ねらいの達成に向けて努力しているか。
⑥発達援助	子ども一人ひとりの理解を深め、受容しようと努めている。 ○子どもの家庭状況や個性を含め、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら、発達援助を進めているか。
	子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。 ○子ども一人ひとりの言葉や表情・行動から、その子の気持ちを汲みとり、丁寧に発達援助を進めているか。
	基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。 ○子どもの個性や各家庭によって、子どもの基本的な生活習慣の確立に違いがある。保護者の考え方もそれぞれである。生活習慣の確立には、保護者と常に連絡を取り合いながら、お互いに協力し合い対応できているか。
⑦教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。 ○子どもの発達段階により、興味・関心を持つ遊びはそれぞれである。色々な遊びを工夫して提示し、興味を持たせるように努力しているか。
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。 ○園庭活動やお散歩時等における、四季折々の自然に興味を持たせる工夫（言葉かけや遊び）があるか。また、植物や虫、野菜等、一緒に育てたり制作活動の素材として活用したりする工夫があるか。
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。 ○こども園には、発達段階に応じた様々な遊びがある。（乳児ではハイハイをしながら小さな坂を上ったり下ったり、年齢が上がると縄跳びや鉄棒、プール等）。素足生活を推進し、様々な遊びを取り入れながら丈夫な体の育成に努力しているか。
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。 ○自然物をはじめ、紙・粘土・綿・紙コップ・割りばし・ペットボトル・自分の手や足 … クレヨン・絵具 … 様々な素材を活用し、自由に表現を楽しめるよう工夫、配慮しているか。

評価項目（評価の着眼点）	
⑧保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。 ○室内では、棚の角や段差、画鋲や釘、床や木材物のささくれなど、危険個所の把握、また、ハサミや教具等の整理整頓がなされているか。屋外では、建築物や遊具の破損、樹木や雑草等様々な危険物を即座に判断し、園長・副園長に報告したり、排除・修理するように努めているか。
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。 ○常に教育・保育環境の衛生を保つために、職員で分担して様々な物品の消毒・洗浄やトイレを含む各部屋の清掃・消毒作業等を毎日、若しくは定期的に実施し、子どもを感染症等から守る配慮をしているか。
⑨給食・食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。 ○発達段階や個人差、アレルギー等に応じて、食事のスピードや食べ方に違いがある。その子に合った食事介助が必要であり、無理やり食べさせたりしてはいけない。楽しみながら食事ができるよう、個人差に応じた食事介助ができていますか。
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。 ○毎日の給食の食材やメニューに関心が持てるような配慮をしているか。また、畑などで自分達が育てた収穫物を調理したり食べたりすることによって、食への関心を高めるよう努力しているか。
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。 ○こども園の様々な行事に合わせたメニューを提供することによって、食への関心を高めるよう努力しているか。
⑩配慮・支援	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。 ○支援を必要とする子（気になる子）に対する理解を深めるため、必要により、市の関係各課や児童相談所、病院等と連携を図り、指導・助言を受けられるよう配慮をしているか。
	個々の特性を理解して、教育・保育にあたっている。 ○支援を必要とする子の割合は年々増加している。保育教諭の専門研修を通し、その理解を深めるとともに、指導方法を共有して、教育・保育を実践しているか。
⑪健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。 ○子どもは、自分から「体調が悪い」等の表現ができないことが多い。健康状態を保護者等から聞いて把握することは必須である。その上で、子どもの様子から体調の変化にいち早く気づき、適切な対処ができるよう常に心掛けているか。
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。 ○こども園で一番事故が多いのが、午睡中と食事中である。園のマニュアルに従い、事故防止に適切に介助・観察をしているか。例～午睡中はうつ伏せにせず、仰向けが基本など。
⑫保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。 ○送迎では保護者と話す機会が多い、その機会を利用したり、連絡帳や電話等を活用して、家での様子やこども園での様子を伝え合うように努力しているか。また、掲示板等により、こども園での様子を伝えているか。
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。 ○参観日やクラス懇談会などで資料等も提示し、こども園の教育・保育について、保護者と共通理解を得るよう努力しているか。
⑬地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保に努めている。 ○小学校との引き継ぎ、中学校の職場体験等による園訪問を含め、近隣の小・中学校との交流や、介護施設等、保護者や祖父母との交流機会を確保しているか。
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。 ○支援を必要とする子の対応を含め、市の関係各課や関係する小学校等との連携を図っているか。
⑭職員間の連携	職員同士、必要な情報交換やコミュニケーションがとれるよう、意識して活動している。 ○職員間に課題があり必要なコミュニケーションがとれないようでは、教育・保育の効果は見込めない。常にお互いを尊重して必要なコミュニケーションがとれるように意識して教育・保育をしているか。
	パワハラ等各種ハラスメントを含め、職員間の問題が生じないように、意識して活動している。 ○職員同士で、パワハラと思われるような言動をとっていないか。セクハラ・マタハラ等になるような言動をとっていないか。

令和7年度 自己評価・施設関係者評価結果

本園における自己評価の結果について、下記のとおり公表いたします。この評価結果を踏まえ、今後もより良い教育・保育が提供できるよう努めて参ります。

<幼保連携型 夕陽ヶ丘認定こども園>

- 開催日時 令和8年5月18日(月) 18:00~19:00
- 開催場所 夕陽ヶ丘認定こども園(ひまわり組保育室)
- 評価委員 委員長 吉田 憲章(夕陽ヶ丘町内会会長)
(敬称略) 副委員長 佐藤 隼人(夕陽ヶ丘こども園友の会会長)
委員 河合 健哉(社会福祉法人北見福祉会評議員)
- 園説明者 杉浦 潤(園長)、三田サカエ(副園長)、佐藤真弓(指導保育教諭)
- 評価の方法について
○本園の職員一人ひとりが、A:大変良い(4点) B:良い(3点) C:一部検討が必要(2点)
D:改善が必要(1点)により、自己評価を行いました。
○その後、全職員分を集計した平均値が「1.5未満をD」、「1.5~2.5未満をC」、「2.5~3.5未満をB」、「3.5以上をA」とし、本園としての自己評価として記入しています。
- 教育・保育目標について
※体を十分動かし、友達と仲よく遊べる子ども
※自分で考え、のびのび行動のできる子ども
※正しい基本的生活習慣を身につけ、元気に遊べる子ども



評価項目		評価	評価コメント(取組状況)
① 理念等	社会福祉法人としての「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。	B	○園の「教育・保育目標」は明文化され、ある程度周知されてきている。より一層意識化され、目標達成に向けて活動していきたい。
② 経営状況	法人の経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	B	○法人・こども園運営、園舎改築を含めて、北見福祉会として中期事業計画を策定して取り進めていく。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	A	○事業計画は毎年、成果と課題を理事会等で協議している。R7年度も課題を明確にし、具体的な取組を進めていく。
③ 指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。	A	○毎月の各種会議での協議を基に指導計画を実践している。また、年度末には年間の反省を基に次年度の全体計画を修正・作成しており、それを活用して教育・保育に活かせるよう取り組んでいる。職員の中になかなか浸透してきていると感じる。
④ 人権尊重	子ども一人一人に寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。	A	○子どもの人権を尊重した、子どもに寄り添った教育・保育を進めている。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。	A	○研修会や職員会議等を活用して、子どもの人格を無視するような言動がないように、園全体で取組を進めていく。
⑤ 園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。	A	○「新型コロナ」5類移行後も、行事を縮小したり参観者の人数制限をすることもあった。R8年度においては、状況を見極めながら、各種行事のねらいの達成に向けた取組を進めていく。
⑥ 発達援助	子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A	○子ども達の個性や家庭状況を理解し、更に個々の気持ちを受け止めて教育・保育を進められるよう、職員会議等で話し合っている。支援が必要な子には、個別の指導計画を作成し、共通理解を図っている。 ○送迎時の保護者との情報交換も毎日意識的に実践している。保護者のニーズに応えながら、子どもの発達援助を考慮した教育・保育を展開できるよう、連携していく。
	子どもの言葉(幼児は行動や表情)によく耳を傾け、丁寧に対応している。	A	
	基本的生活習慣については、家庭と連携しながら(朝夕のお話や連絡帳等も含め)、子どもの状況に応じて対応している。	A	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
⑦教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。	A	○研修会や職員会議等を通して、質の高い教育・保育を展開できるよう工夫している。B 判定は、保育教諭等職員は更なる質の向上を目指しており、現状に満足していないという結果と考える。一層の向上に努める。 ○子ども達の興味を引き出す教育・保育の実践には、保育教諭等職員一人一人、更にスキルを高める必要がある。研修等を通して個々の実践力の向上を促すとともに、保育教諭相互の共通理解を図っていく。 ○お散歩や身体を使った遊びを一層増やし、「体を十分動かし、友達と仲よく遊べる子ども」の目標達成を目指す。
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。	B	
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。	B	
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。	B	
⑧保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。	A	○保育教諭等が日常的に安全点検をするとともに、毎月1回は危険箇所が無い現場調査を行っている。園舎も古くなったが、出来る限りの点検・修理等を進めていく。 ○消毒作業は全職員分担で毎日実施しており、感染症対策を含めた衛生管理は今後も続けていく予定である。衛生機器の活用を含め、清潔で整った保育環境を維持する。
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。	A	
⑨給食・食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。	B	○発達段階や個人差、アレルギー等に応じて、楽しく食事ができるよう努めているが、ミスも若干あった。 ○自分たちで植えた野菜を収穫し、美味しく食べられるように工夫して収穫・調理をしている。 ○給食調理員と保育教諭とが相談して、園行事に合ったメニューを提供できるよう努めている。行事とメニューの関係を子ども達が知り、喜んで食べている様子も見える。
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。	A	
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。	A	
⑩配慮・支援	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。	A	○支援が必要と見込まれる子ども達には、保護者の理解のもと市子ども総合支援センターと繋がり、助言を受けることもある。保育課等他機関とも繋がりをもっている。 ○研修会等を通して、支援が必要な子ども達への指導のあり方を学び、園として共通理解のもと、教育・保育を進めるよう努めていく。
	個々の特性を理解して、教育・保育にあたっている。	A	
⑪健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。	A	○年間計画に基づき毎月避難訓練を実施している。（消防参加も年2回実施）交通安全推進員による交通安全教室を行った上で、お散歩の際に子ども達と安全な歩き方や交通ルールについて確認している。今後も継続する。 ○子どもの体調変化には職員による検温を含め、体調不良や微熱等の症状を素早く察知し、適切に対応できるよう努めている。看護師の存在も大きい。 ○食事中の事故防止については、日常的に注意・指導を行っており、マニュアルにそった介助に努めているが…。
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。	A	
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。	B	
⑫保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。	A	○保護者支援は、園の重要な役割の一つであり、送迎時の情報交換を含め、意識して取り組んでいる。保護者の悩み・苦しみに傾聴し支援できるよう、今後も研修会などを通して保育教諭個々のスキルアップを図っていく。 ○参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。 ○参観日や懇談会を活用し、保護者の悩み・苦しみに傾聴し支援できるよう、今後もそういった機会を作っていきたい。研修会などを通してスキルアップを図りたい。
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A	
⑬地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保に努めている。	B	○高米小学校との連携を強化し、年長児の小学校訪問、教頭先生の出前授業を始めた。地域との連携は、コロナ禍前より減少している。次年度は創意工夫していく。 ○子ども総合支援センターや保育課、児童相談所等との関係機関とは、連携を図ることができた。
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。	A	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
⑭ 職員間の連携	職員同士、必要な情報交換やコミュニケーションがとれるよう、意識して活動している。	A	○質の高い教育・保育には、保育者同士の共通理解が不可欠である。クラス会議や、以上児・未満児会議等も活用するとともに、日常のコミュニケーションを大切に活動するよう努めている。
	パワハラ等各種ハラスメントを含め、職員間の問題が生じないように、意識して活動している。	A	○パワハラ・セクハラ等が起きないように、日頃から注意喚起を促すとともに、管理職が常に保育状況を把握し、研修や面談等を活用しながら事故防止に努めている。職員によるチェックシートも計画的に実施していく。
全体を通して	○こども園としての自己評価は、概ね「A」となった。（全項目の総点数を項目数で除した点数が3.5以上） ○昨年度の「Bの上」から向上した。法人や園としての取組、及び職員の努力により一定程度の結果となって表れたと言える。より向上心をもって園の運営を進めていかなければならないと考える。 ○園の経営・運営は、法人の中期事業計画に基づき、全般的に着実に目標に向かって進んでおり、安定した施設経営・運営に努めていきたい。 ○園舎改築事業に関しては、なかなか進まない状況にあるが、近い将来の改築を目指して行動していく。 ○教育・保育の分野では、依然として「B」判定が多い。個々の職員が、一層のレベルアップを図ろうとしているととらえたい。研修会への参加、園や法人研修会の実施を進め、保育教諭同士の共通理解を図りながら、より質の高い教育・保育が実践できるよう、創意工夫していく。 ○発達援助に関しては、今後ますます重要な視点となるだろう。自己評価の評定は上がったが、個々の特性を理解し子どもに寄り添った支援となるよう、園として、法人として、より望ましい支援の在り方を模索していきたい。 ○幼保小連携「架け橋プログラム」の実践に向けて、R7年度は特に高栄小学校との繋がりを強くした。年長児の小学校訪問、高栄小学校教頭先生による園への出前授業「小学校ってこんなところ」、管理職同士の協議等、一定程度進めることができた。今後も継続・発展を目指す。		
評価委員からの意見等	＜自己評価の結果に関するご意見・ご質問＞ ○園が一丸となって取り組まれていることがよくわかる。教育・保育の「B」が多いのは、より良いものという向上心という評価だと思う。学校でも配慮が必要な子が増えている。早めに発達支援をしていくことで、その子たちの育ちが良くなっていくと思うので良いことだと思う。個別に指導計画を立てていると思うが、保護者と一緒に行えると良いと思うので、働きかけていければ。「幼保小連携」も素晴らしい取組なので、さらに発展させていければと思う。 ○給食・食育について、学んだことを子どもが実際に話してくれるので、保護者にとってもありがたいと思う。親身に相談にのっていただいている。幼保小の連携についても話が聞こえてくるので、良い取組だと感じている。 ○食育に関することだが、給食を作っているところを見せていただいて、努力されているのを感じた。誕生日で、できる・できないの差は大きいと思う。指導するは大変だと思う。 ＜園として＞ ★「幼保小連携」については、高栄小学校の協力を得てR7年度に新たにスタートした部分も多い。今年度はより発展させていきたい。 ★⑩「配慮・支援」は、項目名を「障がい保育」から変更した。学校と一緒に、大変重要な取組となっている。保護者の理解が必要であるが、保護者の中には昔の“特学”イメージも残る。子ども達のために、焦らず共通理解を深めていきたい。 ＜公開保育に関するご意見・ご質問＞ ○実際に見てはいないが、評価を見て、素晴らしい公開保育だったのだと思う。若干緊張感はあると思うが、普段の様子が見られたのは良かったのではないかな。 ○素晴らしい取組だと思う。先生方にとっても良いことだと思う。 ○子ども達はいつも通りだったのではないかな。先生方の方が緊張していたように感じた。リズム運動は、とても理にかなった動きだと思う。 ＜園長より＞ ★リズム運動は、強制的ではなく、子ども達が楽しみながら笑顔で行うことが前提である。子ども達の身体の機能・発達が、リズム運動を通してわかる。園長自身、中学校体育指導にかかわっていたが、リズム運動は本当に素晴らしく、保育教諭の巧みな指導に頭が下がる思い。最後は輪になって大きな声を出し、肺活量や音楽性の向上にも役立っていると感じている。		

令和7年度 自己評価・施設関係者評価結果

本園における自己評価の結果について、下記のとおり公表いたします。この評価結果を踏まえ、今後もより良い教育・保育が提供できるよう努めて参ります。

<幼保連携型 光西認定こども園>

- 開催日時 令和8年5月20日（水）18:30～19:30
- 開催場所 光西認定こども園（2階会議室）
- 評価委員 委員長 重井 睦（社会福祉法人北見福祉会評議員）
（敬称略） 副委員長 谷口 文敏（西富町内会副会長）
委員 広田 綾輔（光西認定こども園PTA会長）
- 園説明者 佐藤 亮（園長）、古屋郁代（副園長）、橋本真由美（指導保育教諭）
- 評価の方法について
○本園の職員一人ひとりが、A：大変良い（4点） B：良い（3点） C：一部検討が必要（2点）
D：改善が必要（1点）により、自己評価を行いました。
○その後、全職員分を集計した平均値が「1.5未満をD」、「1.5～2.5未満をC」、「2.5～3.5未満をB」、
「3.5以上をA」とし、本園としての自己評価として記入しています。
- 教育・保育目標
※感性豊かで、身体の丈夫な子ども
※友達といっぱい遊び、仲間を大切にできる子ども



評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
① 理念等	「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。	B	○法人としての理念や、園の「教育・保育目標」は明文化され、ある程度の評価をされている。より一層意識化できるよう周知の仕方等、工夫していく。
② 経営状況	経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	○法人・こども園運営を含めて、北見福祉会として中期事業計画を策定して取り進めている。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	A	○事業計画は毎年、成果と課題を理事会等で協議している。評価・反省を基に課題を明確にし、具体的な対応を進めていく。
③ 指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。	B	○園内で毎月反省し、それを基に次月の指導計画に反映するよう取り組み、年度末には、年間の反省を基に指導計画全般の見直しを図っている。より教育・保育に活かすよう、指導計画を意識し、職員間での情報共有を丁寧に行い、より良い指導計画の検証と一つ一つの実践を積み上げていきたい。
④ 人権尊重	子ども一人一人に寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。	A	○個々の対応が難しい場面もあるが、子どもに寄り添った言葉かけや接し方等の教育・保育を重点として取り組んでいる。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視するような言動をしないよう、十分配慮している。	A	○今後も職員間での確認や研修、職員会議等を活用して、人格を無視するような言動がないように、園全体で取組を進めていく。
⑤ 園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。	A	○今後も各種行事のねらいの達成に向け、反省を基に共通理解や準備等、職員間で共有し取り組んでいく。
⑥ 発達援助	子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A	○子ども一人一人、個に応じた教育・保育を進めるよう、日頃から職員へ働きかけをしている。
	子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。	A	○送迎時の保護者との情報交換や連絡帳の活用、子ども達との直接的なふれあい等を通して、子ども理解を意識的に実践してきた成果が出ていると考える。今後も多様な保護者のニーズに応えながら、子どもの発達援助を配慮した教育・保育を展開できるよう、一層の理解や連携の仕方を研修会等を通して工夫していく。
	基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。	B	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
⑦教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。	B	○年齢相応のより質の高い教育・保育、子ども達の興味を引き出す教育・保育の実践には、まだまだスキルを高める必要があると感じている保育教諭が多い中、昨年度に引き続き公開保育を実施し、外部の方に観ていただくことができたことは大変刺激になった。参観者の指摘事項等を基に反省・改善しながら、今後の指導・保育に役立てたい。 ○子どもの興味のある事だけでなく、職員のニーズに合った研修会等を通して、職員の自己肯定感を高め質の高い教育・保育を展開できるよう工夫していく。
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。	B	
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。	B	
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。	B	
⑧保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。	A	○月に1回、職員が担当箇所を危険が無い点検している他、日常的に安全確認をするように心掛けている。 ○消毒作業は、用務員を含めて毎日実施している。今後も感染症対策として、継続していく予定である。衛生管理に留意し、より良い保育環境の維持に努めていく。
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。	A	
⑨給食・食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。	B	○発達段階や個人差に応じて、楽しく食事ができるように努めている。 ○3・4・5歳児を対象とした栄養士の方による「食のおはなし」や5歳児の給食食材の分類、また、園の畑での活動は、子ども達の食育につながるものとする。但し、畑の維持・管理等、各クラスの対応だけでは難しく十分な取組とはなっていない。 ○給食担当者は、保育教諭と相談しながら行事に合わせたメニューを提供するよう努めている。今後は、行事とメニューのつながりを子ども達が知り、より喜んで食べられる環境をつくっていく。
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。	B	
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。	A	
⑩配慮・支援	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。	A	○保護者との共通認識に立った保育・指導に努めている。個々の特性に応じた対応ができるよう、より一層の諸機関との連携を進める必要がある。 ○子ども理解や連携の仕方を研修会等を通して学び、園全体として共通理解のもと教育・保育を進める。
	個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。	B	
⑪健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。	A	○避難訓練は年間計画に基づいて毎月実施している。警察署員による交通安全指導は、3歳以上児で実施した。併せて、日常にお散歩時等、子ども達と安全な歩き方や交通ルールについて確認している。 ○子どもの体調変化にはどの職員も意識化されており、少しでも体調不良や微熱等の症状があれば、迅速に対応するよう努めている。 ○食事中やアレルギー食等の事故防止は、日頃から注意・指導をし、マニュアルに沿って介助しているが、職員全体の共通認識の下、職員間のチェック機能を強化し意識化していきたい。
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。	A	
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。	A	
⑫保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。	A	○子どもの様子をいろいろな場面を通して、保護者に伝えるように努めた。特に、子どもの送迎時の保護者との情報交換や保育ドキュメンテーションの掲示等を含め、意識して取り組んでいる。 ○参観日や懇談会、日常の連絡等を通して保護者の悩み等に傾聴し、信頼関係を築いていけるよう努力している。今後も研修会等を通してスキルアップを図り、保護者の願いをできる範囲で受け入れ、子育てで共通理解を図れるよう配慮していく。
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A	
⑬地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保につとめている。	B	○地域の夏まつりや冬の集い等、状況に合わせて実施し交流を深めた。特に、小学校との連携では、近隣小学校と接続カリキュラムの準備を進め、学校訪問や園での模擬授業等、取り組むことができた。 ○市の支援センターをはじめとした関係機関とは、一層連携を密にしていきたい。
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。	B	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
⑭ 職員の連携	職員同士、必要な情報交換やコミュニケーションがとれるよう、意識して活動している。	B	○職員の考えや指導観等の共通理解を図るよう、クラス会議等を有効に活用していきたい。
	パワハラ等各種ハラスメントを含め、職員間の問題が生じないように、意識して活動している。	B	○法人のハラスメント防止規程や事例を基にした研修等を実施し、未然防止に努める。
全体を通して	○全体的に法人や園としての取組、及び職員の努力により一定程度の結果となっているが、より組織体として向上心をもって園の運営を進めていかなければならないと考える。 ○教育・保育については、職員間でコミュニケーションを図り、指導計画に沿ったより具体的な実践を心掛け、PDCAによるより質の高い個に応じた対応ができるよう努めていく。 ○今後ますます重要視される小学校との連携について、今年度は近隣小学校との学校訪問や小学校の教諭が来園しての模擬授業等、新たな取組ができた。今後も教育・保育も含め実施内容や体制等を検討していきたい。 ○昨年度に引き続き公開保育を実施し、多数の外部の方に参観いただき、様々なご示唆をいただけたことは、成果の一つと考える。 ○多様な考えをもつ保護者のニーズに応えながら、子どもの発達援助を配慮した教育・保育を展開できるよう、今後一層の子ども、また、保護者支援や連携の仕方を研修会等を通して工夫していかなければならない。		
評価委員からの意見等	<自己評価の結果に関するご意見・ご質問> ○園の取組状況や自己評価・公開保育結果等の説明から、丁寧な指導をされていることが伝わってきた。特に、園の教育・保育目標や実践での「五感を磨く」取組は子ども達にとってとてもよいことなので、今後も継続してもらいたい。 ○行動面等、予測がつかない子ども達に気を配りながらいろいろと対応している職員の姿は、とても評価が高い。保護者が気にかける部分も自己評価では達成できているのでよいと思う。 ○「自己評価」は、職員自身のことに振り返り評価すると厳しくなるものである。特に、評価項目の「教育・保育内容」等、職員が謙虚に受け止め評価しているものと思う。評価の観点をすべてクリアするのは難しいと思うが、自己研鑽・研修に励みチャレンジしてほしい。 ○いつも園舎内の清掃が行き届いており、挨拶など園の雰囲気や職員の子どものみに対する対応等、素晴らしいと思う。職員も大変明るく教育・保育をしているので今後も継続してほしい。 ○全国的、北見市でも出生率が低くなっているが、園児の確保に向け、0歳児の入園が多くなるよう日々の保育を頑張してほしい。その為にも、園の取組や特色等をホームページ以外のPRの仕方を検討するとよい。 <公開保育の結果に関するご意見・ご質問> ○小学校との連携として2校の小学校から多くの先生方が参観され、貴重な意見をいただけたことは、とても有意義だったと思う。これからも継続し研鑽を積みむとよい。 ○架け橋期カリキュラム等、素晴らしいと思う。職員の負担感もあると思うが、職員の努力が様々なところでみられたのはとてもよいことである。今後も小学校と連携し取組を進めてほしい。 ○保育教諭の説明・援助の場面では、もう少し子どもに考えさせる、また、選択させるような場面があるとより一層、創造的、主体的に活動できそうである。 ○子ども達が、どの活動にも笑顔で楽しみながら取り組んでいる様子が印象的だった。 ○園での活動が各クラス前の廊下に紹介されており、送迎の保護者の方に良く伝わったと思った。安心と信頼につながると思う。公開保育も信頼関係づくりの一環だと思う。		



令和7年度 自己評価・施設関係者評価結果

本園における自己評価の結果について、下記のとおり公表いたします。この評価結果を踏まえ、今後もより良い教育・保育が提供できるよう努めて参ります。

<幼保連携型 みなみ認定こども園>

- 開催日時 令和8年5月13日（水） 18:30～19:30
- 開催場所 みなみ認定こども園（病後児保育室）
- 評価委員 委員長 佐藤 寛之（みなみこども園父母の会会長）
（敬称略） 副委員長 菊野 淳一（社会福祉法人北見福祉会評議員）
委員 成中 憲（南仲町町内会会長）
- 園説明者 徳増秀隆（園長）、近藤恵美（副園長）、伊藤友美（指導保育教諭）
- 評価の方法について
○本園の職員一人ひとりが、A：大変良い（4点） B：良い（3点） C：一部検討が必要（2点）
D：改善が必要（1点）により、自己評価を行いました。
○その後、全職員分を集計した平均値が「1.5未満をD」、「1.5～2.5未満をC」、「2.5～3.5未満をB」、「3.5以上をA」とし、本園としての自己評価として記入しています。
- 教育・保育目標について
＊いきいき遊び 強い心身をもつ子ども
＊他を思いやる 心豊かな子ども
＊自分で考え のびのび行動する子ども



評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
① 理念等	「理念」や「教育・保育目標」が明文化され、周知が図られている。	B	○法人としての理念や、本園としての「教育・保育目標」は職員・保護者に毎年示している。さらに理解を深められるよう啓発活動に力を入れていく。
② 経営状況	経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	○事業計画は検討委員会により成果と課題を明らかにし、法人組織としての見直しを図った。 ○法人・こども園経営の質の向上を目指す中期事業計画により、意図的、計画的に課題解決を図った。 ○職員に対して勤務状況アンケートを実施し、課題を明らかにして2か年計画の業務改善策に取り組んでいく。
	本年度、もしくは中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	A	
③ 指導目標	指導計画について、毎年及び毎月ごとに反省・検討し、子ども達の育ちを第一に考え、教育・保育に活かしている。	B	○週の計画、振り返りを基に月の指導計画を作成し、年度末全体計画検討委員会により法人として計画の見直しを図った。若手、中堅、ベテラン職員がそれぞれの役割を自覚し、指導計画を基にした教育・保育活動に臨んでいる。
④ 人権尊重	子ども一人一人に寄り添い、子どもが自分の思いを伝えることができるように配慮している。	A	○改正児童福祉法により虐待の通報が義務化されたことを受け、職員研修に取り組み人権意識の醸成を図った。 ○不適切な対応がないよう「みなみのハンドサイン」を考案した。子どもの前で言葉を出さずに意志の伝達を行い、会議においてハンドサインの有無を確認するなど、自己点検機能を定着させることが出来た。
	子どもの心を傷つけたり、人格を無視したりするような言動をしないよう、十分配慮している。	A	
⑤ 園行事	指導計画をもとに行事のねらいを定め、それが達成できるように実践している。	A	○本園の勤務年数が長い職員は阿吽の呼吸で取り組むことが出来るが、全ての職員が自己の役割を理解し、見通し持って活動できる行事実施計画を作成する必要がある。行事を通して園の目指す子ども像に迫るために、計画立案、実施、反省、改善のサイクルを確立する。
⑥ 発達援助	子ども一人一人の理解を深め、受容しようと努めている。	A	○一人一人の個性や家庭環境の理解に努め、指導方針を全職員で共有し効果的な援助に取り組むことができた。 ○子どもの目線に立って丁寧に話を聞き、言葉や表情から心情を掴み寄り添った関わりに努めてきた。 ○基本的な生活習慣の定着を目指して家庭と連携している。連絡帳や朝夕の会話から課題を共有し、健全な心身の育成を図るよう努めているが、ゲームやネット動画に時間を費やす子どもたちの増加が気がかりである。
	子どもの言葉（幼児は行動や表情）によく耳を傾け、丁寧に対応している。	A	
	基本的な生活習慣については、家庭と連携しながら（朝夕のお話や連絡帳等も含め）、子どもの状況に応じて対応している。	A	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
⑦教育・保育内容	年齢や子どもの興味に沿った遊びを工夫している。	B	○発達段階に応じた遊びはどの世代も適切に行っている。マンネリ化を危惧する保育教諭があり、その意識を共有して研修につなげていく。 ○散歩や野菜作りを通して植物や動物、水中生物や鳥などを観察することで、自然への興味関心を育てている。 ○リズム運動は本園の特徴であり、すべてのクラスで体づくりの有効な手段として定着している。 ○落ち葉、泥、砂、雪など自然の素材で表現したり、クレヨンや水彩を活用したりするなどしてテーマに応じた創作活動に取り組ませている。
	身近な自然とかかわる機会を作り、子どもの様々な興味を引き出し、自然の素材を教育・保育に活用している。	A	
	身体を使った様々な遊びを工夫して実践している。	B	
	様々な素材を使って、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮している。	B	
⑧保育環境	保育室や遊戯室、園庭等、園舎内外の整理整頓を心掛け、危険なものを放置しないなど安全に配慮している。	A	○月に1度の避難訓練では、自己点検表を用いて各担当者が点検を行い園長が点検状況の確認を行っている。 ○日頃から保育環境の維持・改善に努めている。危険な個所を発見した場合は、管理職に報告する習慣を確立しており修繕にも素早く対応している。 ○トイレや保育室、遊具や玩具の清掃・消毒を定期的に実施している。
	保育室やトイレ及び教育・保育用品の衛生管理に留意し、定期的に消毒している。	B	
⑨給食・食育等	楽しくゆったりと食事ができるように、また、個人差に応じた食事介助・指導に努めている。	A	○発達段階に応じた食べ方やスピードに配慮し、たのしく食事ができるよう介助している。個人差やアレルギーへの配慮も適切に実践するよう努めている。 ○子どもたちが菜園で野菜を育て、収穫した野菜を食べることで野菜に対する興味関心を高め、食べられることに感謝する気持ちも育てている。 ○給食担当者は、副園長と連携して行事給食を企画している。以上児は3クラス合同で喫食し、異年齢との交流を深めながら給食を楽しんでいる。
	給食や収穫物の調理等を通して、食材への関心や食べる意欲を育てている。	A	
	各行事に合わせたメニューを工夫して提供している。	A	
⑩配慮・支援	保護者の理解のもと、関係機関や医療機関と連携を図り、指導・援助を受けている。	B	○保育課やきらりと連携し情報交換を行い、多様な個性・特性の子に対して受けたアドバイスを、子どもや保護者との関わりに活かしている。 ○個別の支援が必要な児童は在籍していないが、職員は園外研修に参加し、障がいについての知識や技術を積極的に学んでいる。
	個々の障がいを理解して、教育・保育にあたっている。	B	
⑪健康と安全	避難訓練や交通安全指導については、年間計画に基づいて実施している。	A	○年間計画に基づいた避難訓練を毎月実施している。また、警察署員による交通安全指導、消防署員による災害指導も実施している。お散歩の際には、子どもたちに安全な歩き方や交通ルールについて学ませている。 ○保育教諭は、登園時に子どもの体調を確認し、活動中の些細な変化も見逃さない意識で子どもの健康状態を見守っている。 ○午睡時の対応マニュアルを再確認した。食事中を含め、子どもたちの観察を確実にを行うことを習慣化している。
	子どもの健康状態を把握し、体調の変化に速やかに気付くように配慮している。	A	
	食事中やお昼寝中の事故防止のため、マニュアルを基本に介助・観察を行っている。	A	
⑫保護者支援	朝夕の送迎時及びクラスだよりや連絡帳・掲示板等を活用し、子どもの様子を伝え合うように努めている。	B	○送迎時における保護者との会話やお便り帳、ホールの掲示板等を通して保護者への情報提供に努めている。 ○年2回の参観日、年2回の懇談会を活用し、園の方針や子どもたちの様子を保護者に伝えている。また、保護者の悩み・困り感に寄り添い支援に努めている。
	参観日や懇談会等を通し、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A	
⑬地域連携	地域の人々との様々な交流（学校や施設を含む）の機会確保につとめている。	B	○公開保育において外部の方からご意見をいただいた。次年度は早期からテーマを設定して実践に取り組む。 ○小学校と連携し「架け橋期カリキュラム」作成した。年長クラスから小学1年生への接続を小中で一体的に捉え、小1プロブレムの防止に努めている。 ○きらり、市教委、保育課、児童相談所と連携している。
	必要に応じ、専門機関や関係機関との連携を図っている。	A	

評価項目		評価	評価コメント（取組状況）
⑭職員間の連携	職員同士、必要な情報交換やコミュニケーションがとれるよう、意識して活動している。	B	○管理職と指導保育教諭の「運営会議」を核に、「職員会議」「未満児会議」「以上児会議」「総合会議」を短時間で開催している。情報の伝達や実施内容の確認を通して質の高い教育・保育活動の実現を目指していく。 ○8月にパワハラ研修を実施し、パワハラの定義、通報手段、予防等について学んだ。心理的負担がある場合は園長に相談することとしている。
	パワハラ等各種ハラスメントを含め、職員間の問題が生じないように、意識して活動している。	A	
全体を通して			○全体的に昨年度とほぼ同等であるが、数値的には若干上回ることが出来た。 ○園としての方針等は示しているが、理解が深まるようさらに工夫する必要があると考えている。また、今年度は組織的な対応ができる仕組み作りとして会議の持ち方や内容を変更してきた。次年度に向けては、その仕組みをより確かなものとし、職員が自律的に活動できることを目指していく。 ○法改正により虐待の通報義務が課せられるようになった。「不適切保育」から「虐待」に言葉が変わったことで緊張感が高まっており、この機会を活かし継続して研修に取り組んでいく。 ○教育・保育活動の充実を目指す活動の一環として「公開保育」の質の向上を目指していく。今年度は子どもたちの活動の様子に高い評価をいただいたが、次年度は職員の動きに焦点を当てた評価がいただけるよう取り組んでいく。 ○認定こども園における保護者との連携は毎日のことである。健康に関する情報交換を中心に、出来るようになったこと、困ったことなどを伝え合うことで、保護者と職員の間には信頼と言う絆が芽生えている。職員によっては「自分などまだまだ力不足」と考えて低い評価を出すものもあるが、今後も信頼関係が継続できる体制づくりに努めていく。 ○今年は、「架け橋期カリキュラム」の作成を通して幼保小の連携を前進させた。年間を通したスケジュール決定、連携のねらい、具体策を共有することで持続可能な取組となるよう進めていく。 ○シフト勤務であることに加えて個別に勤務時間が違うパート職員が多いことから、職員間の連携はこども園の大きな課題である。子どもに関わる情報伝達の方法や、協力体制を工夫する必要がある。
評価委員からのご意見・ご質問等			<自己評価の結果に関するご意見・ご質問> ○働き方改革を進める上で手作りのものを減らすとのことだったが、モノ作りが得意な職員のモチベーションが低下しないようにバランスよく行ってあげてほしい。 ○みなみ認定こども園と南小学校で取り組んでいる架け橋期カリキュラムは素晴らしいと思う。幼保小連携がこんなにも具体的になっていることに驚いた。 ○「ハンドサイン」とはどのようなものなのか気になっていたが、資料を見てとてもいい取組だと感じた。「ハンドサイン」を事務室・トイレ・休憩室に掲示し、未満児・以上児会議でハンドサインが出たかどうかを確認しているところも具体的に良いと思う。 ○朝、子どもたちが登園した際に。体調や体に傷がついていないかなどを確認していることに感心した。命と安全は園において必須だということがよく分かった。 ○私の子は3人ともみなみ認定こども園ではなかったが、ここの保育・教育は素晴らしいと思う。 <公開保育の結果に関するご意見・ご質問> ○公開保育当日の先生方は自然な感じだった。あれだけ自然な姿で動いているということは、かなり事前準備をしているのではないだろうかと感じた。 ○当日は小学校と中学校の先生も来ていたが、日常的にもっと交流を深められると良いと思う。 ○意見交換において、現在の学校教育では人間関係のトラブルが多いということが課題となり、言語能力の低下やSNSの普及が原因の一つであるとのことだった。園児たちがスマホやタブレットをどのように活用しているのかが気がかりである。 ○令和8年度の公開保育も楽しみである。

